

小雨が降り出した頃、右沢との出合に到着した。しかしめざす右沢は、変化に乏しい沢であった。なだらかな沢をトボトボと行くと、小滝が連続してあり、さらに進むと3段の滝が現われたが、何なく直登。ほどなく二俣。水量はほぼ同量。向かって右の沢は2段の滝となって落ちている。左の沢を行くと4mの滝。直登できそうにも思えたが、途中で後悔しても遅いので、左側を捲く。そしてまた二俣。右の沢を進んだが、単調である。その後2段の滝があったほかは、平凡なままで、たいしたヤブこぎもなく、13時50分、稜線に立ち廻行を終える。

(記・)

【タイム】 霧ヶ森山(9:10)→右俣右沢
出合→右沢終了(13:50)

霧来沢支流越谷沢

1992年8月22日

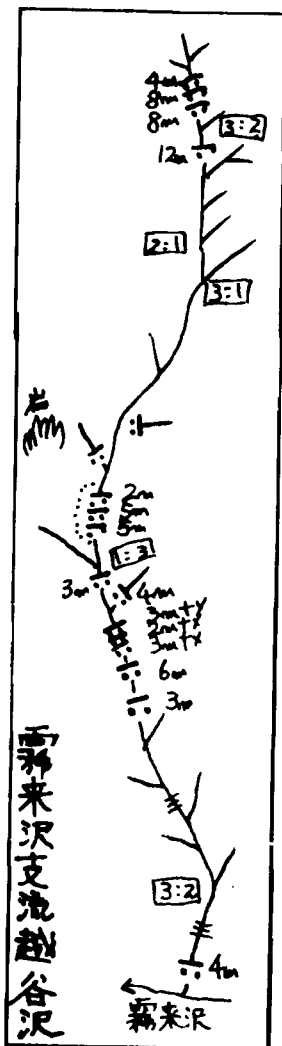
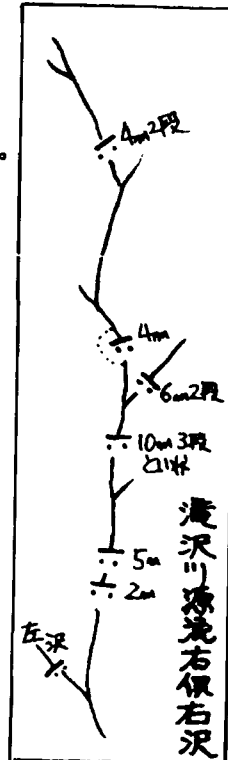
⌞

午前8時、林道からめざす対岸の沢を確認して、車から降りる。すぐにメジロ（アブの一種）の襲撃を受ける。ものすごい数だ。霧来沢に降りる。歩道はない。左岸にはモウセンゴケがたくさん生え、ひよろ長い花が咲いていた。

沢を渡り、目的の越谷沢に入る。すぐに4mの滝が現われ、直登する。そして二俣。水量の多い左側の沢に入る。

メジロが次々と集まってきて、体中に止まる。かたまっているところに平手打ちをすると、一度に10匹以上が下に落ち、沢を流れていく。

昨日降った雨のためか、両側からいくつもの小沢が流れ込んでいる。それから、次々と滝が現われるが、どれも登りやすく直登する。目の前上部に大きな岩山が現われてきた所でまた二俣。右に入ると、ほどなく5mの滝。直登はあきらめ、左側を捲く。登りきって見ると、3段の滝であ

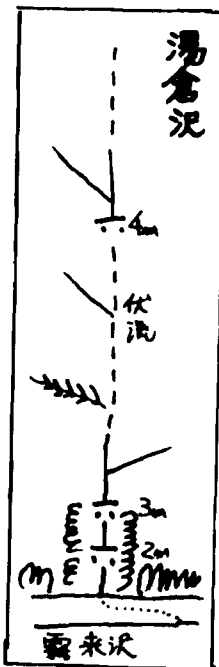


った。さらに登ると、左側から一枚岩の岩盤を伝って水が流れ込んできている。手を入れて見ると生温く、昨日降った雨水であることがわかる。その後も小沢が合流してくるが、雨水によるものであろう。

急な沢床を登りつめると、落差のある滝が連続して現われるが、水量も少なく足場もあり、全て直登。だいぶ高度をかせいだようだ。

上部にめざす尾根が見える。地図上から、996mのピークから北東にのびる尾根と思われる。根曲がり竹（チシマザサ）につかまりながら、比較的楽なヤブを越え、10時45分、大石田沢との分水嶺に立ち、遡行を終える。（記・！）

〔タイム〕 出合(8:00)→遡行終了(10:45)



霧来沢支流湯倉沢 1992年8月23日

霧来沢の底は玉石。胸までの波渉と泳ぎを重ねて、湯倉沢の出合に着く。泳ぎの正味は50mくらいだろう。メジロ（アブの一種）がものすごく、泳いでいても頭に群がってくる。

湯倉沢は、出合近くに小滝2本をかけただけで、すぐ水が涸れる。ヤブもかぶさってきたので遡行を打ち切ろうと思ったら、上部から水音が聞こえてくる。様子を見ることにして、遡行を再開する。

上部には4mほどの斜瀑が現われるが、またすぐ水が涸れてしまう。ヨモギなどのヤブがかぶさってきたこともあり、遡行終了とする。

〔タイム〕 湯倉沢出合(8:15)→遡行終了(8:50)

幽ノ沢右俣 1992年8月22日

車を止めるとメジロ（アブの一種）が群がる。追い払いたたき殺しながら出発。女滝までは登山道を利用する。沢からは男滝の上部が望めた。男滝は、中ほどに